

【学会事業】

「残したい水ものがたり」の登録地（2018年版）

不知火海・球磨川流域圏学会

平成26年度から、不知火海・球磨川流域圏内の将来に残すべき水辺環境を当学会において認定し、水辺の重要性を伝えていこうという新事業「残したい水ものがたり」を展開することになりました。その事業の趣旨や選定方法などを以下に説明するとともに、現在までに学会で承認された登録地を報告いたします。

1. 残したい水ものがたり事業とは

事業の趣旨：不知火海・球磨川流域圏内の、将来に残したい水辺環境を、当学会が登録地として認定することによって、流域圏内の守るべき水辺の存在を県民に知らせていく。

2. 水辺の範疇について

- ・ここでいう「水辺」とは、河川、海岸、溜池、湧き水、水路、その他水の存在がある場所をいう。不知火海球磨川の流域圏内であること。
- ・原則として、候補地の広さは当面100 m × 100 mの上一桁（10 m × 10 mから1,000 m × 1,000 m）程度とするが、残すべき水辺が広い範囲に及ぶ場合は、「特例」として扱う場合もある。この判断は審査委員会が行う。
- ・具体的な候補地の募集、選定、決定を行うための具体的な基準・手順等は、この事業実施が総会で承認を受けた後に設置される審査委員会で作成する。

3. 選定の方法（概要）

- ・審査員は会員とし、審査員によって構成される審査委員会が行う。
- ・会員及び非会員の推薦、公募、または役員の自薦により、将来に残したい水辺候補を選出し、審査委員会で検討する。基本的に現場を確認して決定するが、過去学会が実施した現地見学会で催行した水辺は、現場確認を省略することも可能とする。
- ・最終決定に至る過程において、当学会で実施する現地見学会、もしくは別途実施される現地の確認作業に参加した審査員、もしくは会員の意見を踏まえることとする。
- ・候補地の推薦・自薦・公募の手段、また候補地の審査にあたっては、WEBを積極的に活用する。候補地が多い場合、現地見学会や現地確認だけでは、すべて審査することは困難な場合があるので、「候補」として登録して公表しておく。審査して欲しいという要請は会員がWEB等を利用した投票ができるような仕組みを考慮する。
- ・希少種が存在する場合は、種名を伏せる（公開しない）などの、配慮をする。
- ・国立公園等、公的な保護がなされている場合は重複して認定することはしない。

4. その他、事業の手続き等

[公表の方法] 総会で発表と同時にWebによる電子地図上で公開する。

[事業の実施回数（決定日）] 毎年6月5日頃（総会前後）

- ・特に多くの要望があった場合は、現地見学会を増やすことを考慮する。これは学会の活性化にも繋がる。
- ・過去、現地見学会実施済の場合は、総会時プレゼンと投票で決定する。
- ・詳細については、事業実施決定後審査委員会において検討し、決定する。

残したい水物語り No. 1 雨宮神社



場所：雨宮（あまみや）神社（球磨郡相良村川辺）（GPS: 北緯 32.2512, 東経 130.9120）

推薦者：大塚勝海

川辺川に架かる相良大橋から五木方面に目を向けると、広い水田の中にこんもりとした森が見える。その様子から「トトロの森」とも呼ばれる“雨宮神社の森”がそこにある。息が切れそうな112段の急な石段を登ると、雨宮神社の社（やしろ）が木々に包まれるように鎮座している。文明4年（1472年）、球磨地方における大干ばつの際に、当地を治める相良藩主が雨宮神社に雨乞いの祈願を行い、帰路につくころには大雨が降りだしたという故事が残されていて、雨乞いにご利益がある神社として敬われている。現在でも干ばつの際には多くの人が参拝に訪れる。社のそばには、「三産（しゃんしゃん）くぐり」と呼ばれる約2mの長さの巨石のトンネルがあり、そこをくぐると「幸せを生む」、「安産」、「金を生む」というご利益があるとされている。神社の創建の謂われは不明で、かつては神秘的なこの森自体が祈りの対象となっていたのではないかとされている。最近では、アニメ「夏目友人帳」の舞台の1つとして登場したことから、遠方から訪れるアニメファンも見受けられる。



残したい水物語り No. 2 荒瀬ダム・ボートハウス



場所：荒瀬ダム・ボートハウス（八代郡坂本町葉木）(GPS: 北緯 32.4226, 東経 130.6462)

推薦者：入江博樹

施設概要：荒瀬ダムの完成に合わせて、ダム湖を利用したスポーツ施設として平成7年3月に竣工された。美しい山並みと四季を通した自然環境を活かし、清らかな水をたたえる球磨川の地形を利用して、水との触れ合いや交流の場の提供を目的としていた。「緑深い山間、湖面に映える建物のシルエットとカラフルなボート」をデザインのコンセプトとしている。荒瀬ダムの撤去に伴い、平成22年4月に休館となったが、当時は同ダムを漕艇場として利用していた高校・大学のボート部の合宿所として使われた。競技が行なわれる際は本部・観覧場となり、空いているときには近隣住民の集会にも利用された。白ペンキ仕上げの建物の外観は、ボードのクラブハウスにふさわしい力強さを表現し、周囲の自然景観とよく調和している。1,2階ともダム湖沿いに一直線に100m近い廊下を配置して、トレーニングルームに研修室等諸室を付加したシンプルな平面構成としている。木造建築物の特徴である胴縁と筋かいを建物全体にわたる基本的な意匠コンセプトにしている。平成8年には「くまもとアートポリス推進賞」を授賞した。



残したい水物語り No. 3 黒淵河川自然公園



場所：黒淵河川自然公園（八代市東陽町）(GPS: 北緯 32.5341, 東経 130.7191)

推薦者：坂井米夫

八代市東陽町の東陽中学校から 200 m ほど先に「黒淵河川自然公園」の看板があり、右折すると 100 m 程先にある。自然の川遊びができる公園で、夏には沢山の子供連れで賑わう。東陽町と五木村の境の大通越を水源にして、溪谷を流れる綺麗な川に黒淵地区で堰を作り、農業用水を取水している場所である。堰ができた御陰で川床が上がり、子供の遊び場として最適な場所になって公園となったと思われる。上流は急峻な地形で緑も多く、木立を流れる風は夏でも爽やかに感じられる。東陽町は石工の町と言われ、石橋が多くみられる。上流では水しぶきを上げて流れてきた水が堰のところで浅くなり、低学年の子供でも安心して遊ばせることができる。小魚や水生昆虫等の姿も見る事ができる。堰の上流には水深の深い場所や岩場があり、堰の下流では自然の滑り台を楽しむことができる。トイレも水道設備も備えてあり、キャンプを楽しむ人も見られる。川の反対側にある小高い丘に登ると、川の流れが山肌を削って流れているところや、緑豊かな山々を一望できて、自然と触れ合いを楽しむことができる公園である。



残したい水物語り No. 4 深水湿原



場所：水島地先干潟（仮称）（球磨郡相良村）（GPS: 北緯 32°14'24.8", 東経 130°47'47.3"）

推薦者：つる詳子

深水湿原は、30年ほど前までは田圃（たんぼ）として人が利用してきた湿地であり、そこでは様々な生物が普通に見られていた。デンジソウやホシクサなど、今は絶滅寸前となった植物だけではなく、ハッチョウトンボ、オオイトトンボ、アジアイトトンボ、オグマサナエなど、県下でも珍しいトンボや、県下で初めて発見されたエゾトンボ、ハッチョウトンボの棲息も確認されている。しかしながら、この場所は深い田圃であったために、構造改善事業から取り残されて放棄されていきましたので、現在ではヨシに覆われて徐々に失われようとしている。それでも、多くの里山で失われつつあるタガメ、タニシ、トノサマガエル、メダカなどを、ここではまだ見ることができる。現在は、相良村の予算によって一部の田圃が耕耘されている。しかしながら、その湿原の保全対策は十分ではない。縄文時代より人の暮らしと共に存在してきた生物や、その生息地を積極的に保全していくことは、この流域の健全度を守るだけでなく、日本の生物多様性保全の観点からも重要である。



残したい水物語り No. 5 大野川河口



場所：大野川河口（宇城市不知火町高良）

（GPS: 北緯 30.6471, 東経 130.6716）

推薦者：佐藤伸二

見事に発達したヨシ原にはヘナタリ類やスナガニが、河口から形成される干潟にもヘナタリ類やムツゴロウなどのレッドデータブック¹⁾に掲載される多くの底生生物が生息する希少な場所である²⁾。ここ松橋町は、明治まで大野川の河口港として栄えた町で、鉄道の発達により舟運が妨げられ衰微したと考えられる。歴史的にも生態系の側面からも、「残したい水ものがたり」に登録するにふさわしい場所である。

参考文献

1) 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと 2009

(http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_709.html, 2015.4.11 現在)

2) 調べます！ 全国の干潟 大野川河口 (<http://www.biodic.go.jp/higata/h108.html>, 2015.4.11 現在)

